

三浦春恵先生の略歴と業績

- 1926年（大正15年）2月8日 岡山県岡山市で出生
- 1942年（昭和17年） 宮城県立石巻高等女学校卒業
- 1944年（昭和19年） 宮城県女子専門学校家事科卒業
- 1944年（昭和19年） 北星高等女学校教諭
- 1947年（昭和22年） 同高等女学校退職
- 1951年（昭和26年） 北海道美唄南高等学校非常勤講師
- 1953年（昭和28年） 北海道美唄東高等学校教諭
- 1962年（昭和37年） 同高等学校退職
- 1962年（昭和37年） 北星学園女子短期大学助手
- 1963年（昭和38年） 同短期大学専任講師
- 1967年（昭和42年） 同短期大学助教授
- 1974年（昭和49年） 同短期大学教授
- 1995年（平成7年） 同短期大学退職
- 1996年（平成8年） 同短期大学より名誉教授の称号授与
- 1998年（平成10年）10月29日 召天

○所属学会及び学会活動

- 1980年（昭和55年） 日本調理科学会理事（1993年度までの14年間）
- 1985年（昭和60年） 日本家政学会東北・北海道支部役員・幹事（1年間）
- 1988年（昭和63年） 日本家政学会評議員（1991年までの4年間）
- 1990年（平成2年） 日本家政学会東北・北海道副支部長（1991年までの2年間）
- 1997年（平成9年） 日本調理科学会より学会功労賞受賞

○主要論文

「Phenylthiocarbamideを中心とした味覚の研究」
（北星短大『紀要』第10号、1964年）

「蔗糖水溶液の嗜好性についての研究」
（北星短大『紀要』第11号、1965年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅠ）甘さに対する嗜好尺度」
（北星短大『紀要』第12号、1966年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅡ）蔗糖水溶液嗜好濃度と紅茶の蔗糖濃度との関係について」
（北星短大『紀要』第12号、1966年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅢ）温度と甘覚との関係について」
（北星短大『紀要』第12号、1966年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅣ）蔗糖水溶液と粘性との関係について」
（北星短大『紀要』第12号、1966年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅤ）年齢・性別による蔗糖水溶液の嗜好濃度について」
（北星短大『紀要』第13号、1967年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅥ）年齢別・性別における甘さに対する嗜好尺度」
（北星短大『紀要』第13号、1967年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅦ）運動による疲労の嗜好濃度に及ぼす影響について」
（北星短大『紀要』第14号、1968年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅧ）蔗糖水溶液に対する識別感度について」
（北星短大『紀要』第14号、1968年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅨ）嗜好飲料に対する地域別蔗糖嗜好濃度」
（北星短大『紀要』第15号、1969年、共著）

「甘みに対する味覚嗜好性について」
（『調理科学』第4巻、第2号、1969年、単著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅩ）食生活構造と蔗糖水溶液の嗜好濃度との関係」
（北星短大『紀要』第16号、1970年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅪ）都市・非都市における食生活構造と蔗糖水溶液の嗜好濃度との関係」
（北星短大『紀要』第17号、1971年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅫ）都市における食生活構造と蔗糖水溶液の嗜好濃度との関係」
（北星短大『紀要』第19号、1977年、共著）

「蔗糖水溶液の嗜好濃度について（そのⅩⅢ）紅茶の蔗糖嗜好濃度に影響する要因の分析」
（北星短大『紀要』第19号、1977年、共著）

「開拓農民の食生活の一考察～レコード餅について～」
（北星短大『紀要』第22号、1983年、共著）

「食事の『自己点検法』を通して見た北星短大1年目学生の食生活」
（北星短大『紀要』第29号、1993年、単著）

○著 書

『手法別・食品別による基礎調理』	（共著）	峯書房	1978年
『家庭科教育法』	（共著）	学術図書出版社	1982年
『理論と実際の調理学辞典』	（共著）	朝倉書店	1987年
『調理のための食品学辞典』	（共著）	朝倉書店	1993年
『東北・北海道の郷土料理』	（共著）	ナカニシヤ出版	1994年